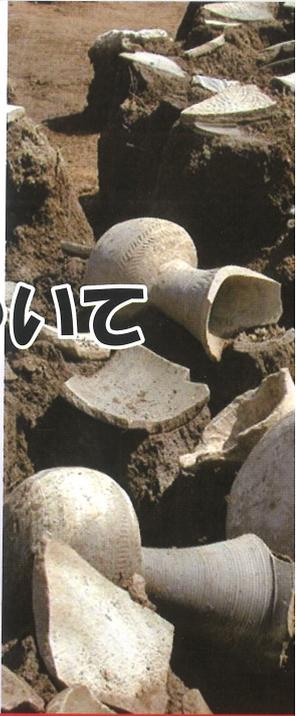


文化財愛護シンボルマーク

このシンボルマークは、ひろげた両手の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱(ときょう=組みもの)のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承してゆくという愛護精神を象徴したものです。

うんぜんし まいどうぶんかざい
雲仙市の埋蔵文化財について

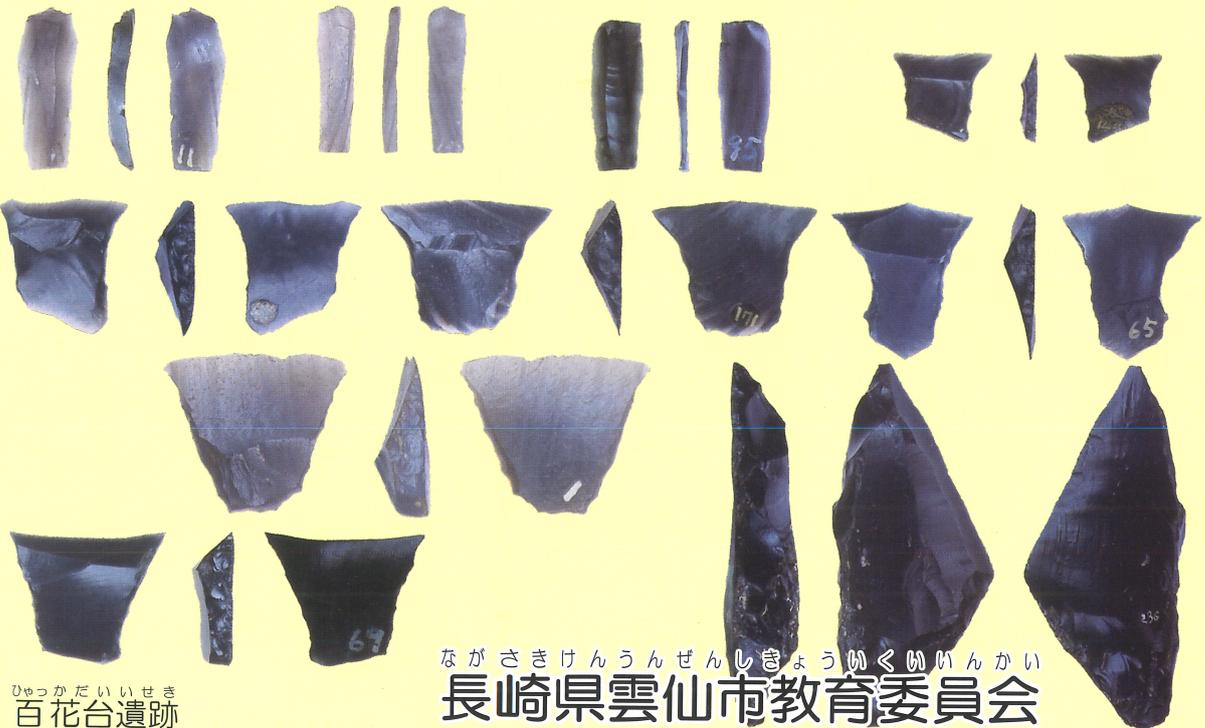
しんししていぶんかざい
～新市指定文化財～



くらちがわこゝろん
倉地川古墳

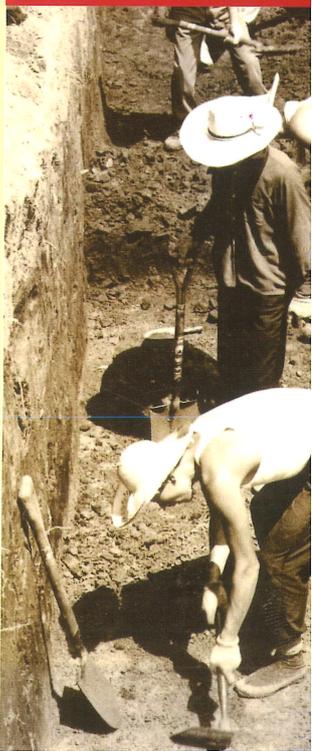


こうげこゝろん
高下古墳



ながさきけんうんぜんしきょうくわくわいんかい
長崎県雲仙市教育委員会

ひゃっかだいせいせき
百花台遺跡



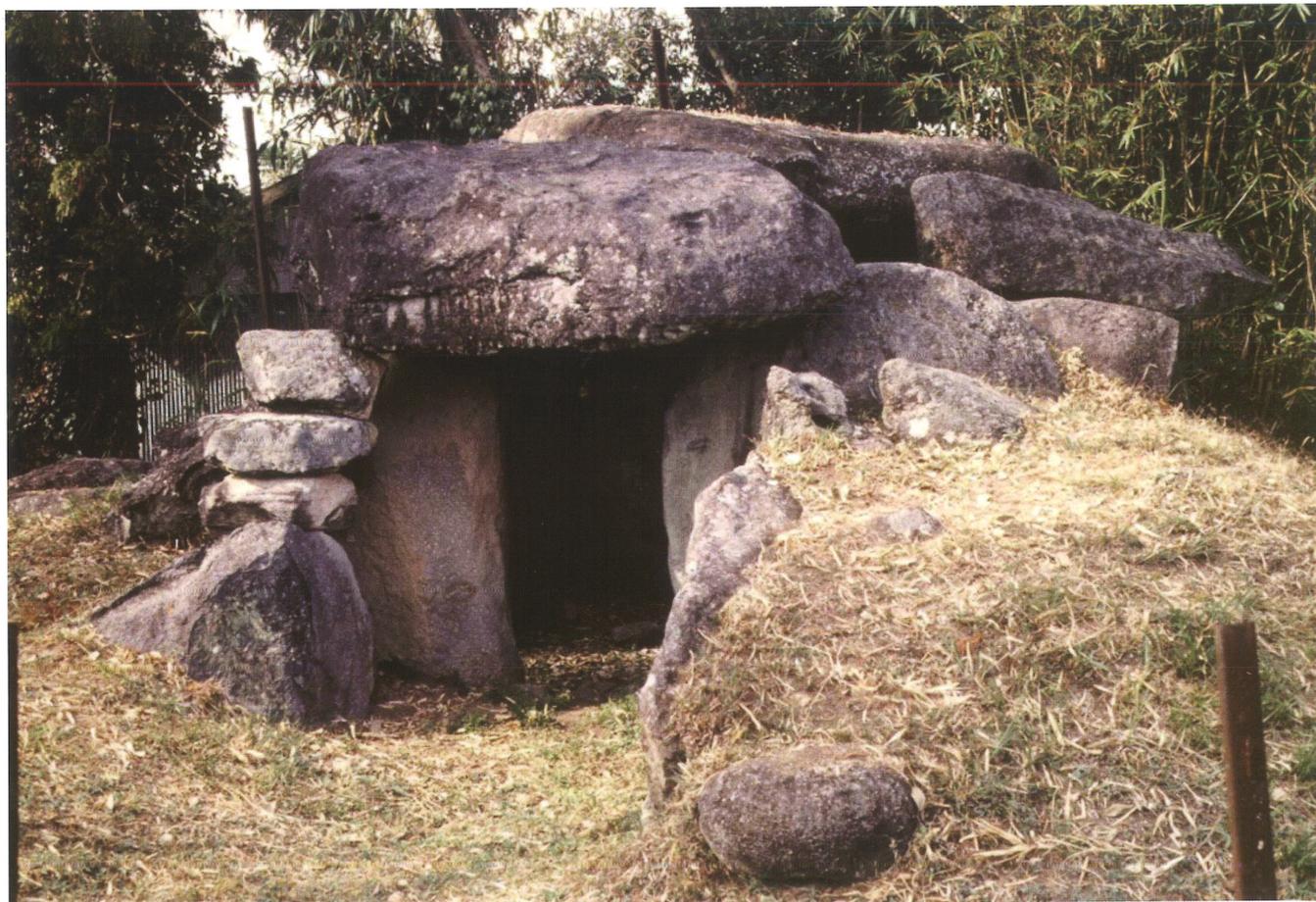
平成28年5月16日、雲仙市で初めて遺跡発掘出土品が、市指定文化財になりました。これで雲仙市の指定文化財は50件となりました。今回は新しく指定された3遺跡について紹介します。

《鬼の岩屋（高下古墳）》

鬼の岩屋（高下古墳）は、国見町高下地区にあります。雲仙岳からのびる丘陵上に位置し、古墳東側には、島原市との境となる栗谷川が流れています。また、近隣には金山古墳や原口（八反田古墳）など古墳が集中し、五万長者遺跡など古墳時代～古代にかけての遺跡が多く発見されています。

鬼の岩屋の墳丘の土は、長い年月でなくなってしまい、巨石で造られた石室の姿は、まさしく「鬼の家（鬼の岩屋）」のように見えます。昭和33年（1958）に九州大学により発掘調査が行われ、様々な出土品が発見されました。もともとは直径18m程の円墳と考えられ、石室は単式の横穴式石室で、南東方向に入口が作られています。石室の大きさは、現在残っている部分で、長さ6.3m、遺体を納める玄室の長さは3.3m、幅2.8mを計ります。玄室から石室の入口への通路である羨道部は2mほどが残っています。天井石は厚さ1m近いものが使われており、玄室内部の床には小石が敷き詰められ、板石を立てて並べ、3つに区切っていました。3人の遺体が安置されていたものと考えられます。

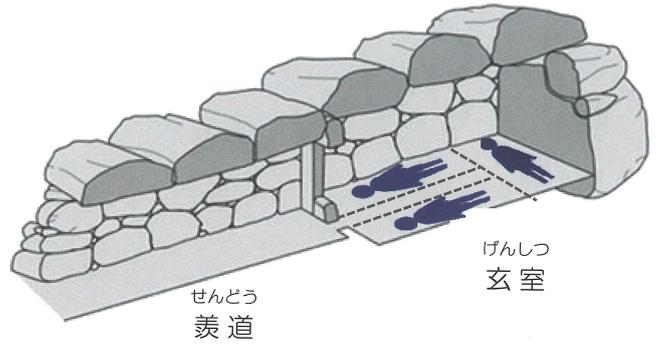
出土品は、勾玉や管玉、金環、銀環、ガラス玉などの装飾品、轡や辻金具などの馬具、太刀や鍔などの武具、土師器や須恵器などの土器類が発見されました。6世紀中頃から6世紀末ごろ（約1,500年前）の品々と考えられます。総数207点が市指定文化財となりました。



「鬼の岩屋」：巨石で作られた石室は、鬼の住む家のようなです。古墳は長崎県の史跡に指定されています。

【横穴式石室】鬼の岩屋の石室は右のイラストのよう
なイメージです。土が盛られた墳丘の中には石で
作られた石室があります。遺体を安置する部屋を玄
室、その前の入口部分に続く通路を羨道と呼びます。

入口は通常はふさがれていますが、後の世に家族
や子孫を埋葬する際は、入口を開き遺体を安置しま
す。このことを「追葬」と呼びます。古墳は1人だ
けのものではなく、豪族の家族や後継者など、複数の
人々のお墓なのです。



せんどう
羨道

げんしつ
玄室

【遺体と共に埋葬された副葬品】鬼の岩屋では
3つに区切られた玄室の床から、土器類と共に
多くの装飾品や鉄製品が見つかっています。こ
れらは、豪族が生前身につけていたものや、埋葬
した際のお供え物などと考えられます。辻金具
は紐を留める金具部分、轡は馬の口にかませて
手綱をつないで制御する道具です。



めのうせい まがたま くだたま
瑪瑙製の勾玉や管玉

きんぎんせい みみかざり
金銀製の耳飾

鬼の岩屋に埋葬された豪族はどのような人物
だったのでしょ。豪華な副葬品からは、かな

り身分の高い人だっ
たことが予想され、
地域を支配していた豪族のリーダーと考
えられます。



たち
太刀



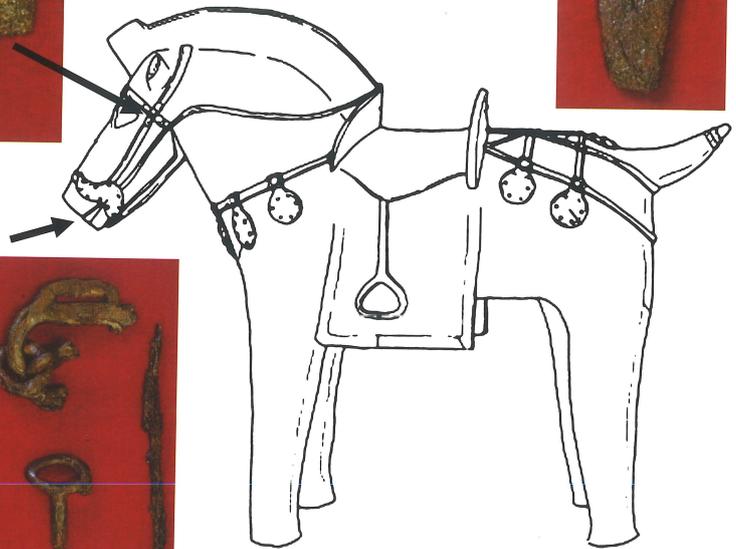
つじかなく
辻金具



やじり
鍬



くつわ
轡



くらちがわこふん 《倉地川古墳》

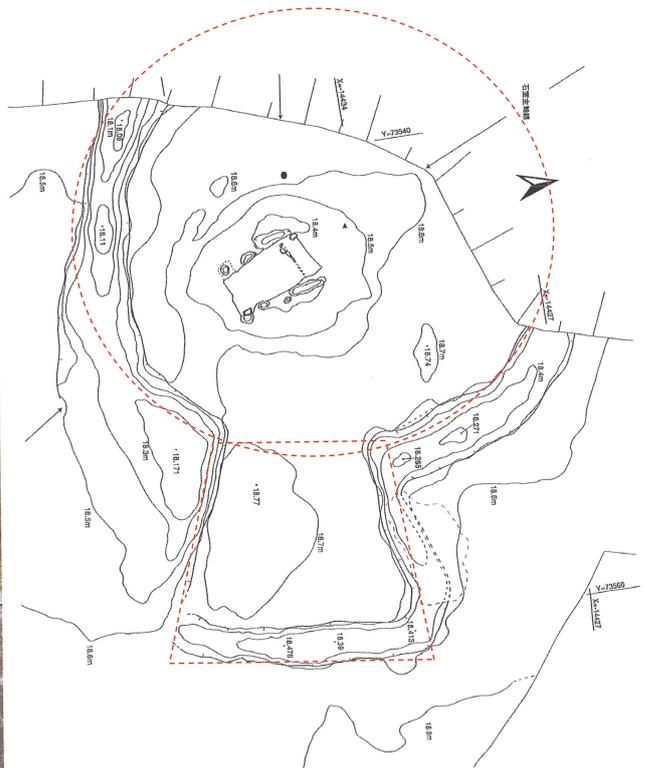
倉地川古墳は、市立国見中学校の西側、県営圃場整備事業に伴う工事の際に発見された前方後円墳です。雲仙岳の北側に広がる火山性扇状地上に位置し、旧石器時代～中世にかけての複合遺跡である、龍王遺跡の範囲内にあります。およそ1,500年前の古墳時代後期に作られた前方後円墳です。

古墳の墳丘や石室は、かつての水田や畑の造成と共にはなくなりましたが、発掘調査によって、古墳周囲に巡らせた「周溝（堀のあと）」や石室の床面部分が残っていることが確認されました。石室の床面からは鉄製品や勾玉が出土し、周りに掘られた周溝からは土師器、須恵器、管玉が発見されました。

島原半島においては、吾妻町の守山大塚古墳に次いで二例目の前方後円墳です。全長は30m、石室は後円部中央に配された横穴式石室。周囲に巡らされた「周溝」は良く残っており、台形の前方部分と円形の後円部分がはっきりと分かり、前方後円墳ということが分かります。横穴式石室の入口付近と考えられる周溝の中からは、多くの土器類が見つかりました。通常の生活用品ではなく、儀式用の特別なものがほとんどで、亡くなった豪族のために、遺体の埋葬前に葬送の儀式を行ったものと考えられます。

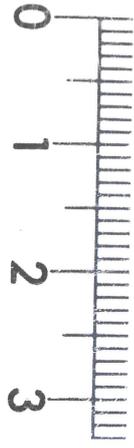
島原半島にあるもうひとつの前方後円墳、吾妻町の守山大塚古墳は4世紀初頭（約1,700年前）に造られ、県内でも最も古い前方後円墳と考えられています。倉地川古墳は約1,400年前の古墳で、県内で最後に作られた前方後円墳の一つと考えられます。前方後円墳は古代大和朝廷とのかかわりが深い豪族の墓であり、倉地川古墳の調査成果は、古代日本の歴史を解明する上で貴重な成果となりそうです。

出土品は、勾玉や管玉、鉄製の武器や刀子（ナイフ）、土師器（赤い土器）や須恵器（灰色の土器）などの儀式用の土器類などが見つかりました。出土品からは、倉地川古墳が6世紀中頃から7世紀初頭まで追葬などにより古墳として利用されたことがわかります。墳丘や石室がしっかりと残っていればもっと多くの出土品が見つかったことでしょう。総数44点が市指定文化財となりました。



古墳の上空写真と測量図、上が円形の後円部、下が台形の前方部。

【遺体と共に埋葬された副葬品】勾玉は瑪瑙、
管玉は碧玉と呼ばれる宝石でそれぞれ作ら
れています。首飾りなどの一部として使われ
ていたと考えられます。埋葬された当時は
もっと多くの品があったことでしょう。



まがたま
勾玉



くだたま
管玉

3点見つかった鉄製品のうちの1本は「鉾」と呼ばれ
るもので、長い柄がついた槍のような武器です。埋葬さ
れた遺体の足元と考えられる場所から見つかっています。
生前は鉾の使い手だったのででしょうか。鉾の横には
2本の「刀子」が見つかりました。刀子は現在で言う
「ナイフ」で、当時の生活必需品でした。



ほこ
鉾

とうす
刀子

とうす
刀子



あな
あ
つぼ
穴の開いた壺
「ハソウ」

たかつき
高坏

【周溝の中で見つかった土器】

石室の入口付近では、上の写真
のように土器が集中して見つか
っています。儀式用の壺や高坏な
どが主なもので、日用品はあまり
見られません。穴の開いた特殊な
壺「ハソウ」と呼ばれるものも多
く見つかります。ほとんど割
れていないものもあり、遺体埋葬
時に儀式用に使用され、すぐに捨

てられたものと考えられます。穴の開いた特殊な壺「ハソウ」は使い方が分からないなその土器です。

ひゃっかだいいせき 《 百花台遺跡 》

ひゃっかだいいせき くにもちやうたいら ながさきけんりつひゃっかだいこうえんしゅうへん ひょうご ゆる さんろくち
百花台遺跡は、国見町多比良、長崎県立百花台公園周辺の標高200m～300mの緩やかな山麓地に
あります。ながさきけんいせきちず ひゃっかだい いせき いわれご- いせき いせき にしがわ なが ひじくろ
川の流れでつくられた段丘上に連続して立地しており、この南北約2km、東西約1kmの範囲に広がる
る全体を百花台遺跡として考えられています。ひゃっかだいいせき おお はくつちやうさ おこな
ひゃくちやうさ おこな
約3万年前の旧石器時代～鎌倉時代までの多くの出土品が見つかっています。とく きゅうせきしだい
縄文時代にかけての出土品は数万点を越え、全国的にも非常に大規模で重要な遺跡です。

こんかいしてい しゅつとひん はっけん はくつちやうさ こくがくいんだいがく ねん おこな
今回指定された出土品が発見された発掘調査は、國學院大學などが1963年・1965年に行った2回
の発掘調査で発見されたものです。現在の遺跡地図では、百花台B・C遺跡の範囲に入ります。ひゃっかだい
ひゃくちやうさ おこな
跡で初めて、本格的に旧石器時代や縄文時代の発掘が行われた調査です。ひゃっかだいいせき どそう ちひやうめん
ひゃくちやうさ おこな
の第1層から最下層の第8層まで8枚に分かれており、調査ではそのうち4枚の土層から、形や素材の違
う石器がそれぞれ発見されました。土層は下から、古い時代から新しい時代へと順番に重なっています。
したがってひゃっかだいいせき だいいせき だいいせき だいいせき だいいせき だいいせき だいいせき だいいせき
第8層が最も古い時代で、3万年以上前の土層と考えられます。第6層で
は「ナイフ形石器」と呼ばれる石器が、第4層では「台形石器」と呼ばれる石器が、第3層では「細石器」
と呼ばれる石器が、第2層では縄文時代の石器が多く見つかりました。

この調査成果から、「ナイフ形石器」⇒「台形石器」⇒「細石器」と、時代ごとに石器が変化すること
が、日本ですべて確認されました。ひゃっかだいいせき ちやうさ かくち はくつちやうさ けんきゅう おおき こう
ひゃくちやうさ おこな
績を残しました。また、第4層から発見された台形石器は「百花台型台形石器」と命名され、時代を判別
する特徴的な石器として、今後の旧石器時代研究においても重要な資料となりました。

市指定文化財となった出土品は、ナイフ形石器、百花台型台形石器、スクレイパー、細石器など、
そうすう てん
総数116点です。



とうじ ちやうさ ぼうす
当時の調査の様子





ねんちようさちてん
1963・1965年調査地点



げんざい ようす
現在の様子

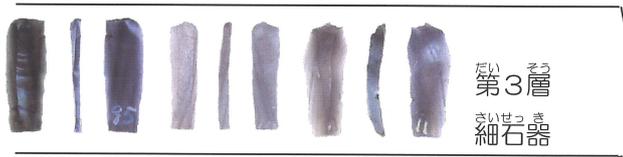
こくがくいんだいがく ちようさ あと しょうわ ねんだい
 國學院大學などの調査の後、昭和50年代に
 なると、ながさきけんきよういんかい によつて、ひゃっかだいこう
 長崎県教育委員会によって、百花台公園
 えんけんせつこう し けんどう こうせんかいりようこう し とこな
 園建設工事や県道389号線改良工事に伴っ
 て大規模な発掘調査が行われました。旧石器
 時代の石器が多く発見され、さらに多くの百
 かだいがただいけいせき もはっけん されました。当時調査
 された地点は、県教委の県道改良工事によつて調査した範囲と重なっており、左の写真の
 中に見えています。今では国道389号線の地下
 下となっています。

しな いにはあちこちに おおむかし ひとひと ぐら した 痕
 跡が残っています。

み つかつた とうき せきき は みなさん の ご せんぞ
 様が実際に使っていたものかも知れませんよ。

まいぞうぶんかざい きちよう れきしさいさん
 埋蔵文化財は貴重な歴史遺産です。

みな ほ こ みらい の こ
 皆で保護し未来へ残しましょう



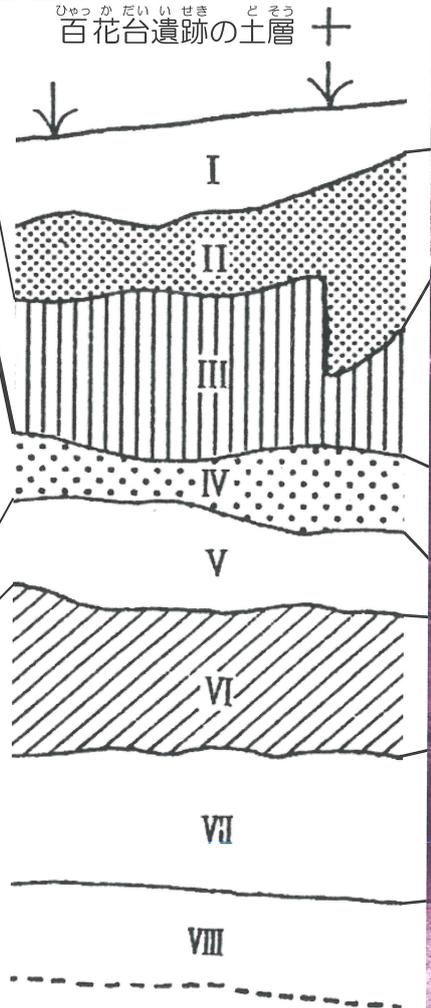
だい さんごう
第3層
さいせきき
細石器



だい さんごう
第4層
ひゃっか だいがただいけいせき
百花台型台形石器



だい さんごう
第6層
ナイフ形石器
がたせきき



ひゃっか だいがた せきき と そう
百花台遺跡の土層



雲仙市管内図

平成十七年十月



「雲仙市の主な遺跡」 (一部の遺跡は市HPで紹介しています)



凡例

●	国指定史跡
○	市指定史跡
■	国指定史跡(史跡)
□	市指定史跡(史跡)
●	国指定史跡(古墳)
○	市指定史跡(古墳)
■	国指定史跡(遺跡)
□	市指定史跡(遺跡)
●	国指定史跡(神社)
○	市指定史跡(神社)
■	国指定史跡(その他)
□	市指定史跡(その他)

雲仙市の埋蔵文化財について
～新市指定文化財～
発効日/2017.03.30
発行/雲仙市教育委員会
長崎県雲仙市千々石町戊582番地
TEL 0957-37-3113
印刷/(合) やまさ印刷所

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平17九履、第172号)」

1 : 75,000

雲仙市役所